

大項目	書くこと
小項目	聴いて書く
タイトル (教材名)	聴いたことばを書こう！
目的 身につけてほしい力	児童生徒が読み書きのどこでつまづいているのかを知るために行う
教材の概要  材料 作り方 工夫点など  画像	<p>① 「くま」「うさぎ」などの単語を指導者が読み上げ、児童生徒は読み上げられた単語を書き取る。</p> <p>②読み上げる単語は、清音だけのものから、濁音・拗音・長音・拗促音などが混じるものまで様々ある。 (下記の「読み書きが苦手な子どもへの〈つまづき〉支援ワーク」に掲載されているテストで全30語)</p> <p>③テストを実施したら採点を行い、誤答のあった音節(拗音・促音など)の種類に基づき分類し、間違いのパターンを分析する。</p>
教材の使用方法	<p>間違いのパターンによって、背景にある困難の要因をつかむことができるので、個に応じた支援につなげられる。</p> <p>(例) 書かれている文字が少ない → 注意性に課題がある 拗音の間違いが多い → 音韻認識に課題がある 長音が抜けてしまう → 空間・時間間隔に課題がある</p> <p style="text-align: right;">など</p>
その他	<p>ひらがな聴写テストを含む検査・書籍には以下のようなものがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読み書きが苦手な子どもへの〈つまづき〉支援ワーク」 (村井敏宏、明治図書、2010)</li> <li>・「改訂版 標準 読み書きスクリーニング検査 (STRAW-R)」 (宇野彰他、インテルナ出版、2017)</li> </ul>